



第38号
国立市谷保3062
堀田勲576-0995
印刷：ジャンメサービス

諸行事への積極的なご参加を

支部長 堀田 勲



平成十五年度の事業も順調に推移し、新年度を迎えることとなりました。これも役員をはじめ、会員の皆様方のご支援のおかげと深く感謝いたしております。

私は学会支部の主な目的は三つあると思っております。

第一に会員相互の親睦、第二に母校への貢献、第三に地域社会への貢献であります。

我が支部の活動は何れもこれらの目的に合致するものですが、新たに地域社会への貢献の一環として「クリーン多摩川」運動への参加を加えることになりました。

この運動は当会の丸本副会長が中心となって長年にわたり春秋の二回数多くの団体、市民が集まって実施されているものです。

運動の内容は文字通り多摩川河川敷の空き缶やゴミを回収することです。年々回収される「ごみ」の量は減少しているそうです。会員の皆さん是非ご参加ください。

さて、当会は数多くの年間行事をこなしておりますが、ご参加いただく方々は限られており、お世話させていただく方々に大変なご苦労をかけております。

私も以前はサラリーマンで、生活は、すべて会社が中心でした。当然、交際する方々も会社に関係する人達を中心でした。その中で二十年以上も前になりますか、たまたま同じ会社に勤務し、しかも同じ国立市に在住する中大の先輩

に誘われて当会に入会いたしました。

会社に通いながらも、諸行事には出来るだけ参加しました。

会社の同僚と居酒屋に行くとは必ず仕事の話になり、上司の話になります。

しかし、当会の皆さんとの付き合い合いは全くインフォーマルで、上下の関係も無く、たまたま同じ大学を卒業し、たまたま同じ地域に住んでいるというだけの関係であります。会社で何かあっても総会などで大きな声で校歌や応援歌を歌うといやなことすっきり忘れてしまいました。

色々の役も仰せつかり、大変なこともありましたが、そのおかげで多くの方々と知り合いになることができました。

会社勤めから退いた今も多くの友人がいるということは本当に素晴らしいことです。これも数ある大学の中でたまたま中大に入学出来たおかげでしょうか。多くの「たまたま」に乾杯したい気持ちです。

私はこの会は会員ひとりひとりが多くの「たまたま」で結成されているように思います。

年代はそれぞれ違っても同じ大学を卒業したというこの「ご縁」を大切に気軽に楽しいお付き合いの輪を広げようではありませんか。

中央大学法科大学院に全国第一位の

五四一三名が出願

司法試験合格者全国一位を目指す

国一位に押し上げていただくよう後輩諸氏のなおいっそうの奮起を祈念いたします。

「中央大学創立一二五周年 記念事業募金状況」

記念事業募金推進本部事務局により、五月一日現在の募金状況は左記の通りです。

- 目標金額 百億円
- 申込金額 二十六億七千万円
- 国立支部申込金額 七百二十四万円 (十四名)

中央大学法科大学院は一学年定員、三〇〇名というわが国最大のロースクールです。

二〇〇四年度の出願者は五四一三名となり、すべての法科大学院を通じて、第一位となりました。ちなみに他の有力大学の出願者もみますと左記の通り

- 東京大学 二〇〇五名
 - 一橋大学 一二〇二名
 - 早稲田大学 四五五七名
 - 慶応大学 二一九七名
 - 上智大学 一九四〇名
- 又、本学法科大学院の合格者を出身大学別に見ると左記の通り

- ①中央大学 一〇八名
- ②早稲田大学 七三名
- ③東京大学 五〇名
- ④慶応大学 三三名
- ⑤法政大学 一七名
- ⑥一橋大学 一五名
- ⑦上智大学 一二名
- ⑧明治大学 九名
- ⑨東北大学 八名
- ⑩京都大学 七名
- ⑪立教大学 七名

中大出身者が第一位であるのは当然とは言え、現在第五位にあまなっている司法試験合格者数を全

思い出多い青春のひと時を過ごした我が母校 中央大学の発展のため、会員の皆様にご協力をお願いする次第です。おいくらでも結構です。当会の会計にプールする仕組みもあります。金額の多少ではなく、多くの皆さんが参画することに意義があると思えます。他大学でも同じような募金活動をしておりますが、額は別として、参加人数の面で大きく負けているのであります。

鹿教湯（かけゆ）温泉一泊旅行



大寺 順子

平成十五年十月十九日国立白門会主催の長野の名湯

「鹿教湯（かけゆ）温泉」一泊旅行に参加した。主人を八年前に亡くした私は、白門会の旅行を毎年楽しみに参加させて頂いている。

奥様達と何回か一緒に泊まらせて頂くうちに同級生に会うような親しみを覚えるようになった。立川駅より「あずさ」にて出発したが、行ききの電車から宴会が始まる。私はのほほんと着の身着のまままで参加しているが、奥様達は、飲み物・つまみ・果物と、いつも気配りしてくださって頭が下がる思いがする。

観光見物としては、松本城と碌山美術館等に行った。松本城では、皆の行いの良いせいで、当日「松本城古式砲術演武」をとり行っていた。鎧に身をかためた鉄砲隊がおそらくは空砲だと思いが実演するのだ。役員さんも当日このような式典があるのを知らなかったらしく、皆「さすが我が白門会」と自分の手柄のように喜んだ。

碌山美術館もなかなかのもので、彫刻にうとい私でも、高村光太郎の裸婦像の暖かさには見入ってしまった。裸婦像が多かったものだから、男性の中には照れて、

ご想像に任せる冗談を言う人もいて、ちょっと無理そうな姿勢の彫像をどうしたらこのように出来るものか、実演する人もいた。

「鹿教湯温泉」は、その昔、文殊菩薩が鹿を使って信仰深い猟師に教えたという、由緒のあるひなびた温泉である。その湯はリウマチや神経痛に効くということで、湯治客も多い。私は持病にアトピー性皮膚炎を持っていて、毎年二回は温泉治療に行っているの、温泉は大好きで、名湯といわれるところは混浴が多いことも常識としてわきままえていた。が、我が白門会の男性諸氏は「混浴」と聞いて、高校生の修学旅行のごとく：ときめいた：：らしい。私は宿に着いて、バスタオルが巻けるならと当然のごとく混浴露天風呂に入った。庭園の中にあり、そのまわりをぐるりと宿泊部屋がとりまいていて。つまり旅館の中庭に露天風呂があるが、庭園の木々が濃く入浴客をよく隠す。お風呂は、さほど大きな風呂ではなく、十人がせいぜいぐらいの大きさだったと思う。混浴の露天風呂でも、バスタオルや湯浴み着を毛羽が落ちるからという理由で身に付けられないところもあるが、ここでは旅館がバスタオルを用意してくれるので安心だった。そのうち、白門会の男性も入ってきて、私も少し

たじろいだが何のこともなく話しが弾んだ。が、男性諸氏は別の意味でも楽しかったらしい。食事が終わって少しゲームをして、私は好きなお風呂に入って、部屋で奥様達と楽しくお話をしていた。夜の九時か十時頃だったか、ワーという歓声が露天風呂から聞こえた。奥様達は「あの声うちの主人じゃないの？」とそわそわし、露天風呂を観察すると、どうも白門会のメンバーらしい。「そういえば、何時かに集合とか、言っていたような気もする」と。「大寺さんも行ってあげなさいよ」と幹事の奥様が言うが、私はもうすでに一時間も入ってしまったので、行く気になれなかった。その後も、数回歓声が聞こえ、その度に奥様達は困った高校生を抱える母親のように眉をひそめて気をもんでいた。

翌日の朝、「昨日は、どうだったの？」と聞くと、白門会のマドンナのAさんが忠実に時間通りに混浴露天風呂に行ったらしい。しかも律儀にも殿方の要望通りにビールを携えて！ 子供のようにはしゃいで話す男性諸氏に、私はほほえましいとさえ思ったが、次の言葉の返事は出来なくなってしまう。

「あんまりはしゃいじゃって泊り客から：うるさい：って、怒鳴られちゃって、みんな目が点になっちゃって、しょぼんとしちゃった」と言うのである。それを聞いて、キツくなった奥様もいら

した。私は「エッ」と言ったきり、呆れたりおかしかったりで、言葉が出ない。いい大人が、酸いも甘いも心得た熟年男性達が久しぶりに：怒られて：：しょぼんとしているのである。その様は、我が白門会でも、きつと何年か語り継がれるであろう。今年旅行も温泉らしい。残念ながら混浴はなさそうだが：：。楽しみにしている。



ハイ ポーズ



松本城古式砲術演武



国立白門会新年会

パターゴルフで盛り上がった新年会

一月二十六日市役所地階レストラン「ハーベスト」で恒例の新年会が開催されました。

会員の奥様も参加され、にぎやかに進行。今年のお楽しみはパターゴルフ。5球のうち、何球入るかで競う。日頃腕に覚えのあるゴルフアーは勝手が違うのか全員沈没。優勝は高橋会計の奥さまでした。



鹿教湯温泉の伝説

四国遍路旅日記(二)



二宮 巍

〔前回「第一日目」泰山寺の続き〕

納経時間には間に合わなかったが、お参りだけは済ませて宿坊に回る。今夜の宿はお寺の宿坊を予約しておいた。今日は大きな宿坊にたつた二人と言うことである。

今年の夏は暑い日が続き、特に歩き遍路にとっては約10キロの荷物と背負った旅なので、その暑さたるや人一倍こたえる。宿坊に着くや、早速着物を脱いで風呂での洗濯だ。また風呂上りのビール的美味さと言ったらこたえられない。

夕食後、それから翌日の予定を立てると言う大仕事が続いている。大体何ヶ寺ぐらい回れるか、何処まで歩けるかを計算し、予め翌日の宿を手配すると言う仕事だ。明日は今治にある、湯の裏温泉郷のホテル・アジュールに予約した。それから家に電話を入れ、家族の無事を確かめて、一日の終わりです。これから毎晩最後に国立には連絡を取るようになる。

『第二日目・八月十八日、57番栄福寺・58番仙遊寺・59番国分寺』
朝七時、先ず泰山寺の納経帳に朱印を頂くことからスタートする。相変わらず陽射しは暑く、昨

日従兄弟に貰ったペットボトルの水が役に立つ。56番泰山寺から57番栄福寺まで約3キロ、57番栄福寺から58番仙遊寺まで約2.5キロの登り道だ。

58番仙遊寺では四国八十八カ所のお砂踏み場があり、そこをひと巡りする。59番国分寺までの間のコンビニで昼食のパンと牛乳を買う。またひたすら国道196号線に出て、歩く。地図が怪しげになり、多少迷いだす。ガソリンスタンドで聞きながらやつとの思いで国道に出る。59番国分寺まで約6.2キロ。国分寺でお参りした後、境内でさつき買ったパンと牛乳を食べる。何処のお寺さんも夏場はお参りが少ないようだ。

午後の二時過ぎ、国分寺の門前にタオルやお土産・お遍路グッズを売っている店があり、徳永さんと言う青年が店番をしていて、呼び止められる。タオルのハンカチとアイスクリームのお接待を初めて受ける(インターネットのホームページも開いているとか)有り難くお接待を受け、納め札を置いて来る。

後日談になるが、徳永さんからも思いも掛けず年賀状がメールで送られて来た。今日は三カ寺で打ち止めにし、今晚の宿であるホテル・アジュールに向かう。このホテルは今治市のリゾート地「湯の裏地区」にあり、近くには桜井の「石風呂」(岩をくり抜き、人が十人位入れるような洞窟で、中で火を燃やし岩を暖める、言わばサウ

ナの原型のようなもの)が有名です。私も折角ここまで来たのだからと、この石風呂に入り、桜井の浜で泳いで来ました。何年振りだ。瀬戸内泳いだのだろう。故郷の海は暖かい。

桜井の浜には、綱敷き天満宮と言って、菅原道実が大宰府へ流されて行く時、座布団がないので漁に使うロープをくるくる巻きにして菅原道実公に座って頂いたと言いう言い伝えが残っているお宮です。

又、桜井では漆器が作られ、椀船と言って、瀬戸内を中国地方、大阪地方へと漆で出来たお椀を売って回り、代金は盆暮れの節期払いと言う、今の月賦払いの原型のシステムであった。

ホテルへ戻ったのが19時、食事をして又翌日の準備だ。次の日は先に61番香園寺に参って、60番横峰寺へと逆打ちが良いと聞いたので、その様に計画した。

(ホテルアジュール)

『第三日目・八月十九日、61番香園寺』

今日も良い天気。朝食が七時からと言う事でホテルを七時三十分に出発する。

ひたすら国道196号線を歩く。十三時三十分頃61番香園寺に着く。香園寺の境内で昼食を食べ、十二時三十分頃出て香園寺の奥の院を経て60番横峰寺へ向かう。約10キロの山道だ。

この辺りから「へんろ道協会」の地図や標識が不鮮明なのか、不

慣れな自分が読み違えたか、見落としたか、奥の院の手前で横道にそれ、一時間のロスをする。ようやく奥の院に到着しお参りを済ませて、いよいよ山道にかかる。一時間程行った所で、どこをどう間違えたか下り道になり、結局元の奥の院に戻ってしまった。奥の院の拝殿で暫く休んでいると、もう夕方の五時を過ぎてしまった。途方に暮れて、今晚はこの軒下で野宿をする覚悟を決めた。

そうしたら地元の人やつて来て、裏の方へ行くので、何があるのだろうと思いついて行ってみると、何と立派な七・八メートルの滝があるではないか。それに本堂の裏手には、今年になって立て替えたばかりの脱衣場小屋(六・七畳)もある。これは今晚の宿にするのに丁度良い塩梅であると思

い、無断で拝借することにした。そのかわり、まだ配線が出来ていないので夜は真つ暗になる。早速、パンツ一つで滝にうたれ、「般若心経」を三べん唱える。小屋に入れば寒くはない。夜も更けて来ると、誰一人やつて来る人もいない。夜は、昼の残りのパンで済ませます。明かりは、持ってきた懐中電灯で十分である。しかし高度があるせいか、八月だと言うのに夜中は寒くて寝ていられず、長袖のシャツを着てなお、雨具のコートも着る

と言う寒さには閉口した。さすがに小屋に泊まったせいとか、寒さのせいとか、夏につきもの蚊は多い。

今日はビールは無し。明日の予定も立てられず。

『第四日目・八月二十日、60番横峰寺・62番宝寿寺・63番吉祥寺・64番前神寺』

今朝は早く起き、四時には歩き出していた。もう一度三十分ほど坂道を登り、道幅が狭くなった所で、良く見たら右へ折れて山道に入らなければならぬのを、昨日は真つ直ぐに登ってしまったのが間違っていた。それはそれとして、滝行きが出来たんだからよしとすべし。さすがに「遍路ころがし」と言われる難所の一つだけあって、標高差六〇メートル・頂上の横峰寺は標高七五〇メートルにあり、登りは相当きつい。七時には60番横峰寺に着いた。

途中でバス道に出て、バスでお参りする人々とはすれ違ったが、三時間の山中ではついに誰とも行き会わなかった。お参りを済ませ、納経所でご朱印を貰う。そこで、お寺から歩き遍路だけにと行ってスナック菓子とおせんべいの接待を受けた。帰りは山道と違って、バス道を下る。バス道と言ってもマイクロバスしか通れない道路で、大型バスは標高二〇〇メートルの付近までしか登れず、一般のお遍路さんはそこからマイクロバスに乗り換えるのである。(一〇年前はやはりマイクロバスで登った。)

九時に60番横峰寺を出て、二時間程下った所に京屋旅館があり、

食事も出来るので少し早い昼食にする。昨夜からろくに食事らしいものを食べて無かったので、非常に食事が美味しかった。

そこから、今夜の宿をと思つて64番前神寺の宿坊（十年前に泊まる）に電話を入れる。そうしたら今は宿坊を閉鎖しているとのこと。仕方なく湯の谷温泉（西条市）に電話して予約する。湯の谷温泉は国道11号線沿いにあり、64番前神寺から五・六〇メートル程先に行つた所にある温泉宿で、一般の人も公衆浴場として利用出来る。

京屋旅館を十二時三十分頃出発して、黒瀬峠を経て196号線沿いにある63番吉祥寺を目指してコンクリートの山道を下る。63番吉祥寺より先に196号線を15キロ戻つて、62番宝寿寺に参拝する。それから63番吉祥寺を打つ。続いて64番前神寺を参拝し終えたのが、丁度五時頃で、その先の宿に着いたのが五時三十分であった。明日の宿は土居駅前前の松屋旅館に予約した。

『第五日目・八月二十一日、(別格、延命寺)』

今日も晴れ。七時に出発。約10キロばかり行つた所で（西条市から新居浜市に入つてすぐ）とあるスーパーで、挟みを百円で買う。同時に余りにも暑いものだから、牛乳を買つて飲んでいたら、まず年配の女の人が寄つて来て「お遍路さんご苦労さん」と言つて三百円をくださった。同じスーパーで今度は同年輩の男性が、新品の夕

オルと五百円を出して、「暑いから汗を拭き、ジュースでも飲みなさい」とまたお接待を受けることになった。初めて現金のお接待に少し戸惑つたが、有り難く収め札を差し上げてお接待を受ける。喜光寺商店街（新居浜市）の辺りで十二時になり、またスーパーでパンと牛乳とバナナを買ひ、店先の簾の陰で昼食にする。この辺りの商店街も余り人通りがなく、寂れている感じがした。

夕方四時頃、別格12番延命寺に着く。この別格札所というのは、八十八カ所とは別に、弘法大師ゆかりの寺で二十カ寺程が四国4県に跨つて点在している。お遍路は全て別格まで回る人もいるし、別格は別格だけで回ると言うツアーもある。そのうちの12番札所にあたる。私の場合は道筋にあればお参りすると言う方針だ。

今日はこれだけで終わりにする。五日目が過ぎる辺りから足のマメが潰れかけて来たので、宿に入る前に葉屋に寄つてヨードチンキを買う。（テープは東京から持つて来た）

他にひとり同宿の人がいるらしいが顔を合わすことは無かった。明日は17キロ先の65番三角寺だけで、その先は何処まで行けるか足まかせである。宿の予約は無し。

『第六日目・八月二十二日、65番三角寺・別格14番常福寺』

朝五時に起き、先ず足の手当て

から始める。左足の小指にヨードチンキを塗つて、テープを巻く。朝食後、六時三十分に出発する。宿のおかみさんが、これをお賽銭にしなさい、と言つて一円玉が五十枚入つた袋をくれた。有難く頂く。

出発してから間もなく朝の七時頃、自転車に乗っていた叔母さんが立ち止まり、「お遍路さん持つていきなさい」と言つて冷えた二十世紀梨を一個くれた。本当に有り難い事である。さてどうやって梨を食べようかと思索しているうちに、丁度金物屋さんの前を通つたので、果物ナイフを三百円で買った。それで、店先で誰もお客が来ないので休ませて貰ひ、早速頂いた梨を剥いて食べる。

伊予三島を過ぎる辺りから少し登りにかかる。道は川之江市に入り、三角寺は標高三三〇メートルの山にある。丁度お昼前に到着する。前回バスで回つた時は麓でタクシーに乗り換えてお参りした。とにかく58番仙遊寺に始まつて、60番横峰寺・65番三角寺と言ひ山にあることが多い。バスで回つた時にはそれ程苦にもならなかつたが、十キロの荷を背負つての山歩きは本当にきつく、加えて夏の暑さにはまったく閉口する。すぐに汗で衣類はびしょ濡れになつてしまふ。それで、お寺に着いて口をすすぐとほつとする。

三角寺で一時間休憩する。これから雲辺寺へ向かう訳だが、地図を見ていて途中に別格14番常福寺

があり、そこへ今晚の宿をお願いしたら、泊めてくれると言う事になった。三角寺から少し下つて国道一九二号線に出る。

四時頃、別格14番常福寺（通称椿堂と呼ばれている）に着いた。一通りお参りを済ませ、宿泊所案内して貰う。この宿泊所は大師堂の隣の建物で、2階にあり、六畳一間で寝具がおいてあるだけの部屋である。風呂は大師堂の中にあり、自分で水を入れ、沸かして入る、と言うものです。

夕食は近くの何でも屋でパンと牛乳、アイスクリームを仕入れて来る。まったく雨、露が凌げるだけと言う宿です。その代わり宿代は無料の遍路宿です。同宿人が一人、豊橋の松永君と言う青年。

『第七日目・八月二十三日、66番雲辺寺・67番大興寺』

66番雲辺寺は香川県に入つて初めて寺であるが、実際の所在地は徳島県池田町である。朝、パン食を済ませて六時半に出発する。

ざーっと国道一九二号線を通り、境目トンネルを抜けるが、後ろから来るトラックの轟音は凄まじく、トンネル内の歩道の道幅が狭く非常に歩きにくい。約二時間余り雲辺寺口から左に折れ、直ぐ登りに掛かる。雲辺寺口から66番雲辺寺まで4キロ余り、三時間の登山道である。一三時頃雲辺寺に着く。前回はロープウェイで登り、紫陽花がまだ綺麗に残っていた事を思い出す。お寺で昼食を取り、

また山道を下りに掛かる。その頃から少しづつきだした。

非常に寒く、長袖に着替える。

一気に七〇〇メートルを二時余で下る。67番大興寺に着いたのが十六時三十分。お参りを済ませて今日の宿おおひらに着いたのが十七時三十分。「おおひら」と言うのは元総理大臣大平正芳氏とは関係がないようだ。大平総理はこの辺りが選挙区であつたようだ。同宿者は三島からの自転車遍路（元建設会社、現失業中五十三才）

民宿おおひら

『第八日目・八月二十四日、68番神忠院・69番観音寺・70番本山寺・琴弾八幡宮』

今日も晴れて暑くなりそう。今日の予定は比較的短い距離な為、朝ゆつくりする。それでも七時には宿を出て、少し下つた所で年配の男性が自動販売機から、甘酒の缶をお接待してくれる。十時には琴弾八幡宮に到着。琴弾八幡宮の手洗い所で婦人から二百円のお接待を受ける。琴弾八幡宮のお参りを済ませ、裏手の小高い岡にある琴弾公園に登る。そこからは、観音寺市で有名な『銭形』（東西一二二メートル、南北九十メートルの寛永通宝の砂絵）を見る。写真撮つたり小休止をする。68番神忠院・69番観音寺はそこから十分ほど下つた所に並んである。両方のお寺を参拝してから、境内にある食堂でお寿司を注文する。

次号へ続く

国立の駅舎

田口 正明
昭和二十八年法学部卒業



昨年の国立の街の話題は、高層マンションの景観と駅舎保存の問題であった。

高層マンションは、大学通りの景観を害するというので、上層階部分のカットという画期的な判決が出た。

いっぽう、三角屋根の国立駅舎保存問題は、中央線の複々線化工事にともない浮上した。計画通りに工事がすすめば、来年度に駅舎は解体される。

三角屋根の駅舎は、一九二六年に誕生した。JR原宿駅とともに喜寿をむかえ、老朽化が進んでいる。

ご高承の通り、くにたちは学園都市。駅舎建設にあたっては、学園都市にふさわしいデザインが求められた。大正地震後くにたちへ移転した一橋大学の当時の佐野

学長も、文教地区にふさわしい駅舎を強く求められた。

有識者の意見を参考に、駅舎は設計された。建物の外観は、赤い三角屋根のユーロピアンスタイル。半円形の窓は、ロマネスク建築様式の面影をのこしている。しやれた北欧風の建物である。こうした駅舎のデザインは戦災で消失したが、小田原駅などに当時の面影をしのぶことができる。

くにたちを開発するにあたりモデルとなったのは、ドイツのゲッティンゲン。駅前ロータリーから、大学通りが南にのびている。道路幅員は、44メートル。道路中央から、車道・自転車道・グリーンベルト・歩道の順に配置されている。グリーンベルトの地下には、共同溝が埋設されている。大学通りは、札幌の大通り公園に似ている。が、真相は異なる。大阪のメインストリート御堂筋にヒントをえて、計画されたといわれている。道幅が広い大学通りは、建設当時、滑走路として使われていた。そのころ、西武は、軽井沢や箱根で別荘地を分譲していた。顧客サービスの一環として、大学通りから軽飛行機に客を乗せ、軽井沢へ送迎した。まことに、おらかな良き時代であった。

中央線複々線化の事業主体は、JR東日本。民営化された、東日本旅客鉄道が担当する。JR東日本のスタンスは、三角屋根保存資金は、いっさい出さない、の一点張りである。事業採算性・安全

性・合理性を優先する民営会社としては、当然の姿勢である。が、捨てる神あれば、拾う神もある。JR東日本の解体派にたいし、保存派が動きだした。市民運動として、保存を求める声が増しにおおきくなった。「壊さないで」といって、クレーン車の前に立ちふさがる事態も予想される。市も、保存運動の後援にのりだした。なかには、一橋大学出身の石原東京都知事に頼んだら、という人もいる。しかし、実力者に頼んで、ハイ残りました、では後味がよくない。また、石・一橋大学学長のように、愛知県の明治村で保存されてはどうか、という考え方の人も

いる。紆余曲折のすえ、駅前ロータリー公園に移転のうえ、保存される案が現実味をおびてきた。半解体のうえ曳屋工法で、ロータリー公園に移転し、保存されるようである。これに要する費用は、何億円と見積もられている。経済大国ニッポンなればこそできる、金の使い方である。考えさせられる今日この頃である。

上野原カントリークラブにてゴルフコンペ

恒例のゴルフコンペは十一月十日上野原カントリークラブで開催されました。十四名の皆さんがプレーを楽しみました。当日は天候にも恵まれ、また、阿部さんの友人で中大OBの藤橋様ご夫妻が遠路、千葉からかけつけていただき、楽しい一日をすごしました。

(参加の皆さん)

- 山川 昌一 風間 健
- 渡辺 義之 高橋 雅幸
- 山口 康雄 山口 靖子
- 小島 泰義 小林 治
- 丸本 大 佐藤 勝彦
- 阿部 正行 堀田トシ子
- 藤橋 克実 藤橋 陽子
- 優勝 阿部 正行
- 準優勝 佐藤 勝彦
- 三位 山川 昌一



当日参加のみなさん (スコアは未公開)

土方歳三の故郷を たずねて

二月三日 節分の日に堀田、風間、石井の三名はNHK大河ドラマで人気上昇中の 土方歳三の生まれ故郷を訪ねることになった。先ずは高幡不動で「豆まき」を見る。壇上にはテレビでよくみる若いタレントの顔もあるが名前は知らない。駅前「そば」を食べ、モノレールの下を歩く。浅川を渡って右手に行くと、石田(せきでん)寺がある。ここに歳三の墓がある。寺の近辺の家はどれも土方姓で、急に現実味が出てきた。子供の頃、このあたりを走ったりしていたのだろうか。万願寺駅の近くに生家を改造した資料館がある。ここは有料。見物客が途切れない。今年は、さぞご先祖に感謝していることでしょう。



堀田 記

問合せ 風間幹事長 五七五〇一三七

学術講演会

日時 十月三日(日)
午後二時
会場 くにたち公民館
講師 理工学部教授
加賀野井秀一先生
演題 これでもいいのか
日本の教育

「入場無料」

平成15年度 国立白門会決算書

自 平成15年 4月 1日 至 平成16年 3月31日

収入の部			支出の部		
科目	決算	予算	科目	決算	予算
年会費	249,000	300,000	印刷費	63,000	100,000
総会費	135,000	150,000	総会費	215,110	200,000
寄付祝金	109,000	0	交際費	118,812	150,000
特別収入	252,617	30,000	親睦行事費	64,840	130,000
125募金活動助成金	43,750	0	通信費	60,385	100,000
125寄付金受入	8,000	0	会議費	8,600	30,000
雑収	5	0	事務用品費	13,663	50,000
前年度繰越金	642,093	642,093	雑費	3,858	30,000
			125寄付金支出	100,000	100,000
			125寄付積立支出	8,000	
			予備費	0	232,093
			次年度繰越金	783,197	
合計	1,439,465	1,122,093	合計	1,439,465	1,122,093

平成16年 5月23日

会計 高橋雅幸 印

会計監事 山川昌一 印

平成16年度 国立白門会予算案

自 平成16年 4月 1日 至 平成17年 3月31日

収入の部			支出の部		
科目	摘要	金額	科目	摘要	金額
年会費	3000円×100名	300,000	印刷費	白門会ニュース	100,000
総会費	5000円×30名	150,000	総会費		250,000
特別収入	さくら祭、市民祭	30,000	交際費	近隣支部総会祝金他	150,000
125募金活動助成金		60,000	親睦行事費	納涼会、新年会他	150,000
前年度繰越金		783,197	通信費	会員連絡他	100,000
			会議費	役員会他	30,000
			事務用品費		50,000
			雑費		30,000
			125寄付金支出		100,000
			周年事業積立金支出		100,000
			予備費		263,197
合計		1,323,197	合計		1,323,197

平成15年度活動報告

- * 4 / 6 (日) 「さくらフェスティバル」参加
- * 4 / 19 (土) 中央大学観桜会
- * 6 / 15 (日) 定時総会
- * 7 / 21 (月) 納涼会
- * 9 / 28 (日) 中央大学ホームカミング
- * 10 / 5 (日) 中央大学学術講演会
- * 10 / 13 (月) くにたちウオーキング
- * 10 / 19 (日) 秋の一泊旅行
- * 10 / 27 (月) 三多摩連絡協ゴルフ
- * 11 / 3 (月) くにたち市民まつり
- * 11 / 9 (日) ゴルフコンペ
- * 11 / 16 (日) 秋のクリーン多摩川
- * 1 / 25 (日) 新年会 (市役所地下ハーベスト)
- * 3 / 14 (日) 春のクリーン多摩川
- * 3 / 28 (日) 中央大学観桜会

- * 5 / 30 (金) 白門会ニュース37号
- * 役員会 毎月1回

平成16年度活動計画

- * 4 / 4 (日) 「さくらフェスティバル」参加
- * 6 / 3 (木) ゴルフコンペ
- * 6 / 13 (日) 定時総会
- * 6 / 27 (日) 一泊旅行
- * 7 / 19 (月) 納涼会
- * 10 / 3 (日) 中央大学学術講演会
- * 10 / 11 (月) くにたちウオーキング参加
- * 10 / 24 (日) 中央大学ホームカミング
- * 10 / 未定 三多摩連絡協ゴルフ
- * 11 / 3 (水) くにたち市民まつり
- * 11 / 未定 秋のクリーン多摩川
- * 1 / 23 (日) 新年会
- * 3 / 未定 春のクリーン多摩川

- * 5 / 30 (日) 白門会ニュース38号
- * 役員会 毎月1回